

第 1 設置の意義

先の大戦が終わってから、早くも半世紀の歳月が流れた。この半世紀、わが国は、平和を享受する中で、国民の暮らしは飛躍的に向上し、産業・経済・文化など様々な分野で、めざましい発展をとげてきた。とりわけ、この地域の産業・経済は、戦前からの産業・技術の集積を生かし、産業技術首都と言われるほどに大きく成長、発展してきた。

いまから50年以上前、戦時体制のもとで、成人男子の大半が兵役に召集されて戦場に赴き、留守を預かる女性も耐乏生活を余儀なくされた。また、学徒や女性は軍需工場に動員され、小学生は親元を離れて農村へ集団疎開するなど、県民のすべてが苦しい生活を強いられた。加えて、軍需工場が集中していたこの地域への空襲は熾烈を極め、市街地は一面の焼け野原となった。

長期に及んだ戦争により、戦場となったアジア諸国を始めとする地域や日本国内各地において多くの尊い生命が犠牲となった。

半世紀が過ぎた今日、戦争を体験した人は少なくなった。街並みは一変し、もはや街の中に戦争の傷痕を見ることはほとんどない。

いまや戦争を知らない世代が社会の大半を占めるようになり、多くの県民にとって戦争の記憶は日々遠いものになりつつある。また、戦争の惨禍を物語る貴重な資料や当時の生活を伝える品々も、都市化の進行や生活様式等の変化に伴って急速に失われつつある。

私たちは、今日の豊かな社会にあっても、その平和と繁栄が、先の大戦とそれに続く苦難の時代の大きな犠牲のうえに築かれたものであることを決して忘れてはならない。そして、再び戦争の惨禍を繰り返すことなく、これからも平和で豊かな社会が発展していくよう、たゆまぬ努力を続けていかなければならない。

そのためにも、当時の県民が体験した戦争の悲惨さと平和の尊さを末永く後世に伝えるとともに、戦争の残した計り知れない教訓を永遠に歴史の中に残していくことが急務である。

* * * * *

第二次世界大戦後長く続いた東西冷戦が終わり、世界はいま、平和への道をたどりつつあるように思われる。しかしながら、いまなお地球上では、民族や宗教の違いなどに起因する地域紛争が生起するとともに、貧困、飢餓、環境破壊など様々な形で、世界の平和が脅かされている。戦争は決して過去のものではなく、平和な世界が構築されるまでには、まだまだ克服すべき幾多の課題が山積している。

21世紀を戦争のない平和な世紀とするためには、各国が協調し、国際的に困難な問題を克服していかなければならないが、国際化の進む今日、私たちの幸せや豊かな暮らしも、ますます世界の平和と密接な関わりを持つようになってきており、県民の一人ひとりが平和に対する意識を高揚していくことが、世界の平和を実現するうえでの重要な要素であるといえる。

そうした状況の中にあって、過去の戦争を次代に正しく伝え、平和を希求する心を育てていくことは、新しい時代の平和の基礎を築くためにも極めて重要である。

21世紀を間近に控え、いま世界は、戦争に終止符を打ち、平和を基調とした新しい国際秩序づくりを模索している。愛知県や名古屋市においても、20世紀最大の出来事であった戦争の教訓を風化させることなく21世紀に引き継ぐとともに、平和を願う県民の共有の財産として、いつまでも平和の大切さを発信し続ける博物館的機能をもった施設の設置がぜひとも必要であると考えらる。